

2023年度 事業報告書

1 事業の成果

法人設立から5年目を迎えた2023年度は、事業名を一部変更。また、取り組み区分を変更して活動に取り組む。これまでの活動により、新たな取り組み等への依頼もいただくことができ、法人としての活動の幅を広げることができた。慌たしい1年間ではあったが、無事に1年間の活動を終えることができた。

自然楽校事業では、「ネイチャーズ」、「アース・キッズ」、「オープンプログラム」を実施。ネイチャーズでは、実験的に子どもたちのみを対象とした半期型の定期プログラム『キッズクラス(海プロ：全5回、里プロ：全5回)』を実施。定期プログラムに対する認知が得られていない状況のため、定員に達することはなかったが、県内(市外)の子どもたちが参加してくれた。また、海プロ・里プロ共に同様の告知方法をとっていたが、御前崎市のイメージや求められているモノ・コトの影響もあってか、海プロへの参加は多くあったが、里プロへの参加希望は極端に少ない状況であった。この結果だけでなく、定期プログラムという特性もあり、参加者の保護者の皆さんともコミュニケーションをとることができ、私たちの活動に対するニーズ把握を行うこともできた。海プロに対しては、「連合・愛のキャンパ」さまからの活動助成をいただくことができ、充実した活動を行うことができ、次年度につながる貴重な情報と器材を得ることができた。アース・キッズでは、5月から10月にかけて、翌年2・3月と月に1回、海での活動を実施。特に、6月から9月の海の森をテーマにした活動に対しては、「しずぎんふるさと環境保全基金」さまからの活動助成をいただくことができ、活動を実施。10月の活動に対しては、「みなと総研 未来のみなとづくり助成(港湾協力団体活動)」さまから活動助成をいただくことができ、過去に作成した生きものガイドブックをリニューアルした『海辺の自然と環境ガイドブック』も作成することができた。また本年度より開始した新たな取り組みとして、10月から12月にかけて月に1回、「TOYO TIRE グループ環境保護基金」さまから活動助成をいただき、海と里山をつなぐ環境学習プログラムを実施することができた。海での活動が減っていく秋冬シーズンに、竹を活用した環境学習プログラムに取り組むことができ、自然の循環に対する意識と理解を育むきっかけを作ることができた。ただし、ネイチャーズ キッズクラスの里プロ同様、里山活動への集客は思うように進まず、このことから、私たちや御前崎という地域に対して求められているニーズを把握することができた。以上のことから、新たなプログラム開発も兼ねて、2・3月は海プロを計画し、実施。特に2月のプログラムにおいては、冬の夜の活動ということではあったが、定員を超えるお申込みをいただくことができ、全体としても、海でのプログラムに対しては定員を超えるお申込みをいただけていることから、把握することができたニーズを裏付けることができた。その一方、オープンプログラムに関しては、新型コロナウイルスの5類移行の影響もあってか、明らかに申込数が減少した。遠方への移動が公に解禁されたことの影響も考えられるため、次年度に関しては、本プログラムに対するニーズ調査も行っていきたい。実験的な取り組みを経て、求められているニーズを把握することができただけでなく、私たち法人が目指すものへの方向性も一致してきていることから、自然体験活動や環境学習活動を通して、自然を楽しみ、身近に感じていただくことで、海をはじめとする自然や環境だけでなく、「自然・環境・社会」のつながりなどについても、興味や関心を育むことができ始めていると感じる。

未来にのこす事業では、自然や環境の保全を目的とした「ハチドリaction.」、自然の中で活動・活躍する指導者の育成に取り組む「インタープリター養成」。自然や環境に配慮した農的活動として「結び」を実施。ハチドリaction.では、久々生海岸で取り組む『里海プロジェクト』、御前崎市内の竹林整備を行う『里山まもり隊』の活動を継続的に実施。里海プロジェクトとして取り組むビーチクリーンでは、1年度間で39回、延べ265名の方にご協力いただき、約11,340ℓ、約1,330kg分の漂着ゴミを回収することができた。2023年の夏は、本州に接近する台風が少なかったことから、海洋ゴミの漂着数も少なくなった。同時に、過去の記録と比較して、一つの台風がもたらす海洋ゴミの漂着数の把握もすることができ、貴重な記録を得ることができた。活動においては、昨年度同様、11月には小笠南地区 労働福祉協議会の皆様と共に取り組むビーチクリーンを実施。また、12月には静岡県御前崎港事務所および国土交通省中部地方整備局の皆様によるお声がけをいただき、御前崎港 安全協議会の皆様と共に、久々生海岸の一斉清掃を行うことができた。また、9月から鈴木建設株式会社の皆様、12月より高橋建設株式会社の皆様が、久々生海岸の保全活動にご協力くださり、月に1回、合同で海岸の保全活動を実施。県内企業の皆様と協働的な取り組みが始まり、継続的な保全活動の基盤構築を行うことができた。その一方で、私たちの取り組みに限らず、コロナ禍が明けた影響もあってか、一般市民の海岸清掃に対する意識の低下が感じられる。この状況は次年度以降も続くことが想定されるため、何かしらの対策が必要になると考えられる。久々生海岸の調査・研究的取り組みについては、昨年度同様、東海大学 仁木研究室の皆様にご協力くださる。今年度は大きな成果を上げることができなかったが、次年度以降につながる貴重な課題が生まれ、2024年度に関しては、アマモ場の土壌成分における調査・研究に取り組む予定。これまでの活動が認められ、昨年に引き続き、J-ブルークレジットの認証をいただくことができただけでなく、御前崎港におけるカーボンニュートラルポート形成計画内でも、重要な海岸として位置付けていただくことができた。また、2023年11月にドバイで開催されたGOP28のジャパ

ンパビリオンでは、日本におけるブルーカーボンに関する取り組み事例集が配布され、その中に、私たちの取り組みも取り上げていただくことができた。同時に、私たちの取り組みに対して、興洋海運株式会社様より寄付をいただくことができた。久々生海岸での私たちの取り組みを、多くの方に認知していただくことができ、活動として認めていただくことができ、静岡県を代表する海辺の環境学習フィールドに向けて体制が整い始めている。里山まもり隊として取り組む竹林整備活動については、実活動に合わせて実施。整備の際に切り出した竹は、アース・キッズ 海と里山をつなぐ環境学習プログラム内で活用し、海と里山のつながりだけでなく、竹林整備の大切さを伝えることができ、改めて、活動の大切さを把握することができた。インタープリター養成では、6月と翌年2月にNEALリーダー養成講座を開講。11月には、3年ぶりのNEALインストラクター養成講座を開講。全講座において、県外からの参加者が多く、地域による意識の差があることを改めて認識することができた。また、2月に開催した養成講座は、資格取得講座としての時期的なニーズの調査も兼ねて実施。新年度に向けたニーズというより、夏(実践の場)に向けたニーズの方が高いということが明らかとなった。開催した講座を通して、各地の指導者ともつながりをつくることができた。結びでは、昨年度同様に市内比木地区の田んぼをお借りし、稲作を実施。今年度は、田んぼに集まる生きものたちとの共生・共存を目指し、田んぼの一部に池を作成し、農薬を使わない稲作を実施。池には多くの生きものが集まり、田んぼの生きもの観察のフィールドとしての活用も見込めることが確認できた。稲作としての収穫量は明らかに減少したが、希少とされているイシガメやスッポンの生息も確認することができ、私たちが目指す、田んぼの生きものたちと共生・共存する田んぼづくりの方向性を作ることができた。

むすびつながる事業では、「協働 Program」が主として活動に取り組む。御前崎市教育委員会が主催する『御前崎クエスト』は本年度も事業受託。前年度よりも事業を拡大することができ、対象年齢別や目的に応じた全5つのプログラムを実施することができ、つながる学びの循環の体制を整えることができた。また、御前崎市社会教育課が取り組む市内小学校を対象とした『海洋体験活動』や、御前崎市環境課の皆さんと共に取り組む『御前崎 環境出前講座』も継続して講師を受託。今年度からの新たな取り組みとして、御前崎市企画政策課協働推進室が主催する『御前崎 未来ゼミ』が始動。本活動においても講師を務めさせていただき、市内の協働的な取り組みの拡大と底上げを目指した人材育成に取り組む。加えて、御前崎市商工観光課企業港湾室の皆さんより、御前崎港開港 50 周年事業として御前崎港を中心とした海洋環境学習プログラム『OMAEZAKI サマースクール』の企画・コーディネート・運営の依頼を受け、事業を受託。帆船に乗り、駿河湾を横断するというキャンププログラムを実施することができた。今年度は、多くの方々と協働的に取り組む活動を実施することができ、次につながる関係づくりを行うことができた。

法人全体としては、コロナ禍の収束に伴い、さまざまな活動に取り組むことができた。2020 年からのコロナ禍を経て、『私たちらしさ・私たちだからこその活動や強み・私たちが目指すもの』を鍛えることができ、大変な3年間ではあったが、今年度につながる大きな成果を生むことができ、2023 年度を充実した1年にすることができ、実りある良い1年となった。しかし、法人運営面においてはまだまだ厳しい状況が続き、会員を増やすための取り組みに関しては、まだまだ課題が多く残っている。今年度の取り組みに満足することなく、2024 年度においても取り組みの継続・強化・発展をさせ、会員など直接的に関わってくださる方を増やしていきたい。そして、より良い活動を、より多くの方に届けることができるよう、より多くの方々と連携・協働を図り、より良いプログラムづくりを行っていきたい。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
自然楽校事業	ネイチャーズキッズクラス	5~9月、11~翌年2月 月1回(全8回)	御前崎市内 久々生海岸 他	2人	一般参加者 合計26名	250
	アース・キッズ (環境学習プログラム)	5~12月、 翌年2~3月 月1回(全10回)	御前崎市内 久々生海岸 他	6人	一般参加者 合計170名	250
	オープンプログラム シーカヤック体験等	5月、8月	御前崎市 久々生海岸 マリンパーク	2人	一般参加者 合計12名	30
未来にのこす事業	ハチドリ action. 里海プロジェクト	4月~翌年3月末 全39回	久々生海岸	13人	保全協力者 合計265名	60
	ハチドリ action. 里山まもり隊	11月~翌年2月 全5回	御前崎市内の 竹林	5人	整備協力者 合計18名	350
	結び 休耕田を活用した稲作	4月~翌年2月	御前崎市内の 田んぼ	5名	一般参加者 合計15名	23
	インタープリター養成	6・11・翌年2月 全3回	御前崎市内 あらさわふる 里公園 他	2人	一般参加者 16名	105
むすびつながる事業	協働 Program 御前崎クエスト ジュニアプログラム	毎月1回 全13回	御前崎市内 各所	5人	市内児童 43名登録	2,450
	協働 Program 御前崎クエスト ユースプログラム	奇数月に1回 全6回	御前崎市内 各所	3人	市内在住者 4名登録	450
	協働 Program 御前崎クエスト ファミリープログラム	偶数月に1回 全6回	御前崎市内 各所	3人	市内在住の家族 7家族23名登録	470
	協働 Program 御前崎クエスト キッズプログラム	5,7,9,10,12,翌 年2月 全6回	御前崎市内 各所	3人	市内児童 29名登録	640
	協働 Program 御前崎クエスト グローバルプログラム	毎月3~4回 全46回	御前崎市内 各所	2人	市内児童 13名登録	540
	協働 Program 御前崎 環境出前講座	6~7月 全3回	御前崎市内 小学校 3校	2人	対象小学校・学 年児童 約200名	100
	協働 Program 海洋体験活動指導	6~7月 全5回	御前崎市内 小学校 5校	2人	対象小学校・学 年児童 約300名	204
	協働 Program 御前崎 未来ゼミ	6~10月 全5回	御前崎市内 各所	2人	一般参加者 12名登録	103
	協働 Program 御前崎開港50周年事業 OMAEZAKI サマースクール	7・8月 3泊5日	御前崎市内 および 松崎町内 他	5人	一般参加者 13名	874
	協働 Program 講師等の活動	通年	関係各所	1名	一般参加者等	40
EC LABO	毎月1回	御前崎市内	2人	参加希望者	60	
ホームページやSNSの 管理運営	随時	法人事務所	2人	不特定多数	50	

- * 1 「事業の実施に関する事項」は、事業ごとにそれぞれの項目を記載する。
- 2 「受益対象者の範囲及び人数」は、具体的に記載する。
- 3 2(2)は、定款に「その他の事業」の記載がない場合には不要。
- 4 定款に掲載している事業で報告書に掲載していないものは、その理由を記載する。